

第三十一回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史散策 「よこはま古民家」とその周辺歴史散策

平成20年7月3日(木) (集合; JR「鶴見駅」西口改札口10時厳守)・解散14時頃

「I」みその公園「横溝屋敷」(休日; 第3月曜日, 祝日の場合は翌日, 12/29~1/3)

指定管理者; みその公園「横溝屋敷」運営委員会住所; 鶴見区獅子ヶ谷3-10-2・電話; 045-574-1987・FAX; 045-574-2087

最寄り駅; 鶴見駅より東急綱島駅行バス「神明社前」下車徒歩8分(綱島からも可)。

特徴; 横浜市農村生活体験館, 江戸中期名主の家, 穀蔵, 文庫蔵・文化財記録ビデオ上映農村生活を知る, 年中行事。

行程; 鶴見駅, 綱島駅行バス→バス停「神明社前」(約15分) 下車→下神明社→みその公園WC→光明寺→本覚寺→上神明社→車地藏→獅子ヶ谷せせらぎ小径→「横溝屋敷」(屋敷内昼食)→バス停「神明社前」→鶴見駅。

散策場所と内容

1・下神明社(祭神, 天照皇大神・はじめ下社鍛冶ヶ谷総鎮守, 後に上社にも神明を勧請し鎮守となる)

下社には此の地域に多い青面金剛像の頭に蛇が巻き付いている蛇巻き庚申(宝永3年, 1706造立)がある。

2・光明寺(天台宗・長栄山成就院・本尊, 薬師如来)

創建, 貞治元年(1362)。本尊は昔, 村の働き者の若者が畑を耕している時に掘り当てたと言う伝えがある。又, その金の仏像が明るく光ったことから光明寺と命名し, 檀家は昼間性を名乗ったと言う。

3・本覚寺(天台宗天台法華円宗比叡山延暦寺末・真智山・本尊, 大日如来木坐像)

創建承応年中(1652~55), 開山延宝元年(1673)橙大僧都法印堯辨(ギョウハツ)和尚, 開基獅子ヶ谷村名主横溝五郎兵衛。初め大日堂, 天和3年(1683), 都筑郡吉田村の本覚寺を引き移すと言う。享保20年(1735)秀存中興。

4・車地藏(子育地藏・後生安楽の仏果・六道; 地獄, 飢餓, 畜生, 修羅, 人間, 天・6観音・六地藏, 六道辻)

享保3年81718)造立の等身大の地藏で、堂内の地藏車は、後生車といわれ、これを回すと六道の苦難から救われ、後生安楽の仏果が得られると言う。昔、東海道の鶴見村から師岡、綱島方面に通じる唯一の街道が通っていた。

5・上明神社(小田切氏の元祖光猶(コウユウ?)を祀った笠付き角塔)

6・獅子ヶ谷せせらぎ小径

7・獅子ヶ谷と横溝家(見学団体要予約)

獅子ヶ谷は横浜市東北部に位置し、鶴見川南岸に広がる沖積地(チュウセキチ)に張り出した丘陵の先端部にある。鶴見川は以前毎年のように流域に水害をもたらした。かつて、この一帯は豊かな水田地帯であったが、現在は工場や宅地になっている。「新編武蔵風土記稿」によれば、獅子ヶ谷は古くは師岡郷と言い、師岡村から分かれたとされる。地名の由来は当地が熊野権現の所領で、獅子舞を受け持った事と伝う。獅子ヶ谷村石高は、正保時代(17世紀中期)に244石余、元禄、天保、明治元年ではともに309石と言う記録が残る。又、家数と人口は文政10年(1827)で、38軒と226人、安政2年(1855)には39軒と244人、明治3年(1870)では42軒と278人となっている。横溝家は16世紀末、慶長年間(1596~1615)に獅子ヶ谷村の名主を勤めて以来、江戸時代を通じて代々名主を勤めた家柄で、現在17代目を数えます(平成2年現在・初代は横溝五郎兵衛)。当家は江戸時代には、鶴見川の沖積地を開墾して水田を拓(ク・ヒラ)き、二つ池や溜井(タメ)を確保し、村内に本覚寺を建立するなど多大な貢献をしてきた。明治期には養蚕や製茶業も盛んに行ってきた。屋敷地が谷戸の入口の御園(ミノ)と称される最良地に位置するのも以上の様な歴史的背景に由来するものと考えられる。

文化財指定と公開(昭和63年11月1日市指定有形文化財建造物1号として指定・平成元年11月18日横浜市農

村生活館「獅子ヶ谷横溝屋敷」みその公園として一般公開・主屋寄棟茅葺2階建 352 m²・公園5028 m²)

旧横溝家住宅は、江戸時代後期から末期に建てられた、表門・穀・文庫蔵と明治期中期に建てられた主屋・蚕小屋の五棟からなり、当時の上層階級の屋敷構えをよく留めている。以前はこの建物の他に、下小屋(肥料小屋)や木小屋(蒔部屋)、風呂場など有ったことが家相図などの資料から判っている。現在で

もこの様な部屋構えが整って保存されているのは市内でも珍しく、貴重な文化遺産となっている。

近隣参考資料

8・稲荷神社（祭神、稲倉魂命・旧字灰ヶ久保の氏神として鎮座）

9・宗泉寺（浄土宗・緑峯山・本尊、阿弥陀如来、本阿弥作・エビネと五百羅漢の寺）

開山、心蓮社念相阿直弁、（正保4年＝1647示寂）寛永年間（1624～1644）創立と思われる。本場九州のエビネ約1000本の見頃は4月下旬から5月初旬。平成元年より始められた五百羅漢の寄進は300体程。明治末年より26年間旭小学校長を勤めた滝川校長の謝恩碑がある。

10・二つ池

獅子ヶ谷と駒岡の境にあり、古くからの灌漑用池として両村の田畑を潤してきた。駒岡村の願いにより、宝永4年（1707）池の中心部に堤を築き、現在の二つ池が誕生した。「堤」を舞台とした竜が登場した伝説が語り継がれている。周りに草木が生い茂り、多くの鳥や魚が棲む自然性の高い池である。

第三十一回行程案内図
下神明社～車地蔵～みその公園横溝屋敷

横浜市
港北区

